

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 6 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	4077100081		
法人名	社会福祉法人 清新会		
事業所名	グループホーム ふる里		
所在地	福岡県糸島郡二丈町大字深江2359-2-2 〒 819-1601 (電話) 092-325-2333		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年5月27日	評定確定日	平成21年7月2日

【情報提供票より】(平成 21 年 4 月 17 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 13 人	非常勤 6 人 常勤換算 10.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての～ 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(円) 無	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,560 円程度	

(4) 利用者の概要(4月17日現在)

登録人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福吉病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム前庭には大きな桜の木が植えられ、玄関先にはベンチやプランターを設置し、下駄箱の上には和を意識した装飾が施されるなど、ホッとできる空間作りがなされている。利用者の状態に応じて介護記録や24時間シート等を使い分け、担当職員の気づきをセンター方式に記入するなど、様々な角度から検討を行い利用者の状況や思いを把握しキメ細かなケアがなされている。日常的に地域ボランティアの方々がホームへ来訪し、食事を作ったり利用者と一緒にすごしていただくことにより、利用者はより安全に安心して過ごすことができている。また、ボランティアの方々のアイデアと日常の中での些細なキッカケ作りから、自然な形で地域との交流の機会が得られるなど、ボランティアの方々の力が大きな支えとなっているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果については、運営推進会議及びミーティング時に報告を行い、改善について話し合うなど、質の向上に向けた取組みがある。この過程において、地域で行われる催し物に参加するなどの取組みが見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員が自己評価内容を記入し管理者がまとめるなど、全職員がかかわった取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表等の関係者が集って2ヶ月毎の開催がある。事業所の現状報告の他に、災害時の話しや外部評価の報告、地域との交流・連携の方法を相談するなど、様々なことについての意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族面会時の声かけ、担当者会議時やその都度の電話連絡等で説明がある。また、運営推進会議及び家族会議事録の送付、年4回の“たより”の送付などを通じて、意見や思いの表出に努めている。出された意見等は、ミーティングやカンファレンスにて協議するなど、質の向上に向けた取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	幼稚園との交流、短期大学や他の介護施設、地域文化会館で行われる行事等への参加、地域ボランティアの方と一緒に漬物を漬けたり、近隣の方からお花を頂いたり、お茶に呼ばれるなど、自然な形で交流の機会がある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	地域密着型となったことを受けて、理念の再 検討を実施した。地域を意識し利用者の視点に たった具体的でわかりやすい理念となるよう に、全職員で協議しての作成である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全員で再検討されたものであり、 職員は常に理念を意識して、日々のケアへ取組 んでいる。玄関ホールや各ユニットの居間、事 務所に掲示されており、自然と目に入る工夫が ある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	幼稚園との交流、短期大学や他の介護施設、 地域文化会館で行われる行事等への参加、近隣 の方からお花を頂いたりお茶に呼ばれるなど、 自然な形での交流の機会がある。		地区にある休憩スペースの利用、地区老人 会との交流、地域住民の相談を受けるなど、 現在抱いている構想が現実となるように取組 まれ、地域交流へ更なる一歩を踏み出される ことを期待します。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果については、運営推進会 議及びミーティング時に報告を行い、地域で行 われる催し物に参加するなどの改善が見られ る。今回の自己評価については、職員が自己評 価内容を記入し管理者がまとめるなど、全職員 がかかわっての取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	関係者が集っての2ヶ月毎の開催がある。事 業所の現状報告の他に、外部評価の報告や災害 時の話、地域との交流・連携の方法を相談する など、様々なことについての意見交換が行われ ている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の 参加が見られる。地域ボランティアの方々の ホーム内での活動状況が行政の広報誌へ掲載さ れるなど、連携の機会がひろがっている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	職員は、制度等についての外部研修に参加 し、ホーム内で報告会を行い知識を共有してい る。家族については、入居前に説明を受けてい るため、入居後の特別な働きかけは行われてい ない。		家族会や運営推進会議等で定期的に情報提 供の機会を設け、広く情報を発信し、制度の 正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に 利用できるような支援を期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族面会時の声かけ、担当者会議時やその都 度の電話連絡等での説明がある。また、運営推 進会議及び家族会議事録の送付、年4回の“た より”の送付を通じて、利用者の様子を知らせ たり、ホーム行事等の案内や報告が行われてい る。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	各会議録及び“たより”の送付、家族面会時 の声かけ、家族会などを通じて、意見や思いの 表出に努めている。出された意見等は、ミー ティングやカンファレンスにて協議するなどの 取組みがある。		ホームへの電話が法人母体からの取次ぎであ り、相談等をしたくても電話をかけづらく、 事業所へ直接の相談や要望等が出し難いと思 われます。法人としての考え等あるかとは思 いますが、家族からの相談や要望等が言い出 しやすい環境整備への取組みを期待します。
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	新しい職員が入職した場合は、まずは利用者 とのコミュニケーションを密に取ってもらうことからは じめ、入職後6ヶ月間ぐらいは日勤帯のみの勤 務とするなど、馴染みの関係作りへの取組みが ある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別などによる制限はない。法人全体で募集し、適性や資質等を重視しての採用である。知らないことを知らないと言える雰囲気作りを大切に、職員間及び利用者やボランティアの方々から常に学ぶ姿勢を維持続けるなどの取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待の勉強会時に、高齢者の人権について学ぶ取り組みがある。高齢者の人権に留まらない幅広いテーマや視点での、人権研修への参加や学ぶ機会の確保までには至っていない。		職員の基本的資質でもある人権意識の喚起のために、行政等で行われる講話への参加や、新聞記事などを活用してのホーム勉強会への取り組みなど、さまざまな機会を利用して積極的な取り組みを期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で計画立てて勉強会に取り組み、運営推進会議において勉強会や研修会への取組状況の報告が行われている。研修案内を提示して希望を募ったり、母体法人から職員を指名して研修に参加させるなどの取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で知り合った他事業所へ職員が見学に行ったり、地域にある小規模多機能事業所との職員同士の交流が図られるなど、他事業所との交流の機会がある。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体施設からの入居や併設のサービスを利用していた方の入居が見られ、入居後も併設のサービスで行われる趣味活動へ参加するなど、入居前から顔見知りの関係が構築されている。また、地域の話や食習慣の話など、利用者同士の話が合い、抵抗無く溶け込んでいる。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の話や地域に伝わる食習慣、畑の耕し方、収穫の仕方や時期、ツワや落、土筆の料理の仕方など、日々のかかわりの中で利用者の豊富な人生経験から学び支えあう関係づくりへの取組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中から利用者の希望や意向の把握に努め、面会時や家族会などを通じて家族の意向等の把握に努めている。利用者の状況により介護記録や24時間シート等を使い分け、担当職員の気づきをセンター方式に記入するなど、様々な角度からの検討がある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らし続けるための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護記録や24時間シート、センター方式等により把握した情報に基づいて、担当職員を中心に全職員によるカンファレンスにて協議を行い、介護計画の作成がある。介護計画の内容は、利用者の生活歴や趣味、出来る事に着目した内容である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	計画作成担当者による毎月のモニタリングと カンファレンスにて、利用者一人ひとりのケア 内容についての協議を行い、職員の気づきをと りまとめ、情報の共有に努めている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	併設のデイサービスで行われる趣味活動への 参加支援、医療連携体制を活かしての協力病院 への受診や往診の支援、母体施設の看護師によ る指導など、利用者の状況や希望に応じた柔軟 な支援がある。また、家族会時に家族向けの勉 強会を開催するなどの取組みがある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	入居時にかかりつけ医の継続と協力医療機関 の利用について相談し、本人・家族の希望に 沿って支援している。ホーム協力医による往診 と受診、必要に応じて専門医療機関と連携を行 うなど、適切な支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	“看取り介護についての同意書”を得ること により、重度化についての意向の把握がある。 その都度の関係者による話し合いを行い、利用 者・家族の意向の確認と支援への対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	家族の了解を得て利用者の反応の良い称 呼を用いたり、利用者のその時々 の状況に応じた称 呼を用いるなど、利用者の プライドを尊重した 対応が見受けられた。個人 情報についても予め 同意を得て“たより”等 に使用するなど、適切 な対応が行われている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先する のではなく、一人ひとりの ペースを大切に し、その日をどのように 過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事のタイミングや食事に かかる時間、1日 の過ごし方、入浴の タイミングなど、利用 者一人ひとりのその 時々ペースを尊重した 対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる 支援 食事が楽しみなものになる よう、一人 ひとりの好みや力を 活かしながら、利用 者と職員が一緒に 準備や食事、片付け をしている	母体法人の管理栄養士が 立てたメニューを基 にホームで調理して いる。料理の下ごしら え、つぎわけなど、利 用者の能力を引き出 しながらの 対応がある。職員は、 利用者と同じテーブル で、持参したお弁当を 食べており、お弁当の 話題で 会話が弾むなど和やか な食事風景であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことので きる支援 曜日や時間帯を職員 の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの 希望やタイ ミングに合わせて、 入浴を楽しめるよう に支援している	利用者の希望により 午前・午後のどちら の時間帯でも良く、 毎日の入浴が可能で ある。入浴の 順番などの決まりは 無く、入りたい時に 仲の良い利用者同士 で入浴したり、一人 で入浴したりと、入 浴を楽しむための 支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	洗濯物たたみや食事の準備、プリンターへの 水やり、畑仕事、趣味の継続など、利用者一人 ひとりの生活歴や趣味、出来る事を把握し、介 護計画に位置付けての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	玄関先やベランダでの外気浴、日々の散歩、 地域で行われる各種行事等への参加、買物や喫 茶店利用の支援など、利用者の希望に沿った外 出を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	職員は施錠することの弊害は理解してい るが、午前中の1～2時間以外、玄関は施錠され ている。また、2階ユニットの利用者の移動手 段であるエレベーターは、鍵による操作が必要 である。		施錠することを常態化せず、利用者個々の 外出傾向の把握とそれらデータの積重ねによる 職員配置や勤務体制の変更等の工夫、ユニット間 や母体法人も含めたさらなる連携など、利用 者の安全を確保しながら日中鍵をかけないで 支援していく体制への取り組みを期待します。
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回のグループホーム独自の避難訓練の 実施を通じて、緊急時の電話の使い方、避難経 路や誘導方法について熟知している。災害時 は、隣接する母体法人施設職員の応援が得られ る体制がある。		地域との連携・協力体制づくりとして、ボ ランティアさんとの連携を活かし、非常災害 時の連絡体制の構築などに向けた取り組みを期 待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	母体施設の栄養士が作成したメニューに基づ いて、ホームで調理している。食事摂取及び水 分摂取量の把握を行い、利用者のその時々の状 態により、刻んだり、お粥やおじやにするなど の対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム前庭には大きな桜の木が植えられ、玄 関先にはベンチやプランターを設置し、下駄箱 の上には和を意識した装飾が施されるなど、 ホッとできる空間である。リビングから玄界灘 が一望でき、リビング席は1ランク上の特等席 となっている。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室出入り口には花の名前がつけられてお り、番地表示を行うなど、利用者に心地よく過 ごしてもらうための配慮がある。居室内は、家具 や仏壇などの使い慣れた物や思い入れの物が持 ち込まれ、居心地良く過ごす為の居室作りへの 配慮が伺える。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号